

平成 24 年度災害時外国人サポーター研修
「災害時通訳・翻訳研修（北部・南部）」

1 趣 旨

災害多言語支援センターにおいて外国人被災者へ情報を届け、相談に対応する際に必要な外国語への通訳や翻訳について、講義やワークショップ、ロールプレイを通じて基本的な知識やスキルをボランティア等に学んでもらうことにより、災害時外国人支援体制の構築を目指す。

2 実施概要

□日時・場所：

（北部）平成25年1月26日（土） 13:00～17:00 福知山市民会館2階24号室
（南部）平成25年1月27日（日） 13:00～17:15 京都府国際センター会議室

□内 容

○講義：「災害時の外国人のニーズとボランティアに求められる支援」

－災害後、時間の経過とともに変わる被災者のニーズ

○「通訳の心構えと通訳トレーニング体験」

－翻訳作業での留意点（固有名詞の翻訳、納期厳守、能力以上の仕事は受けない…）

－災害時に求められる人材（地元の人、外国人の状況を知っている人…）

－通訳の3大原則「正確性」「中立性」「倫理性」

－通訳練習（シャドーイング、リプロダクション、クイックレスポンスなど）を体験

○「通訳ロールプレイ」

3名のグループ（外国人被災者、行政担当者、通訳）に分かれ、3つの場面を想定し、通訳を体験

－シナリオ①：発災後数日後（余震への不安、応急危険度判定張り紙、避難所入所）

－シナリオ②：発災後1週間頃（罹災証明書について、申請の仕方）

－シナリオ③：発災後1ヶ月頃（仮設住宅について、入居申し込み）

○ワークショップ「災害が発生するまでに準備できること・すべきこと」

－行政、サポーター、外国人の立場から、準備できること、すべきことをグループで話し合い

<講師：柴山 智帆 氏（（認定NPO法人 多文化共生センター東京 専務理事）>

□参加者数：

（北部）29名 うち、近畿地域国際化協会連絡協議会からの参加者1名

（南部）52名 うち、近畿地域国際化協会連絡協議会からの参加者19名、見学者3名

□主催等： 主催：（公財）京都府国際センター

共催：近畿地域国際化協会連絡協議会、福知山市（北部のみ）

3 事業の効果：

- ・“通訳・翻訳について、プロならではの留意点や勉強のコツが聞け、またロールプレイなどによって実際のイメージがつかめてよかった”との意見が多かった。
- ・今回の目的は、災害時の外国人支援に必要なとなる通訳・翻訳について留意点などを学んでもらい、通訳トレーニング体験により日頃の勉強の仕方を知ってもらうとともに、通訳ロールプレイを通じて実際の業務をイメージしてもらうことを意図した内容だったが、ロールプレイでは、実際に即した教材（応急危険度判定や罹災証明など）を使用したため、少し難しく感じられた方もおられたようだ。
- ・京都府下では、この類の研修は初めてであり、多くの参加者から“また、何度も開催してほしい”との声をいただいた。
- ・府外の様々な地域や団体からの参加があり、互いに情報・意見交換ができて有意義だったとの意見が多く聞かれた。